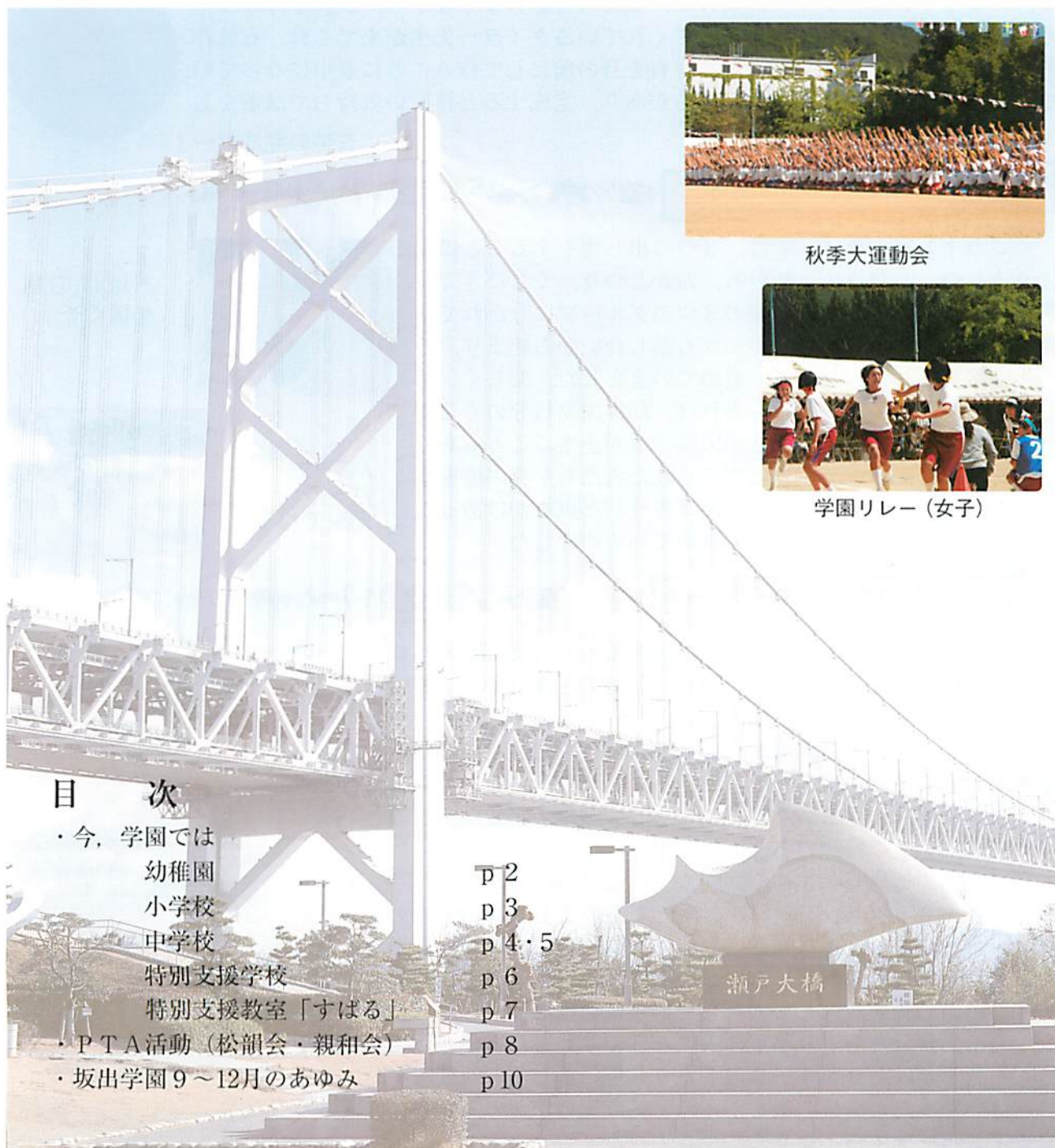


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第37号

2010.12



秋季大運動会



学園リレー (女子)

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p.2
 - 小学校 p.3
 - 中学校 p.4・5
 - 特別支援学校 p.6
 - 特別支援教室「すばる」 p.7
- ・PTA活動 (松韻会・親和会) p.8
- ・坂出学園9～12月のあゆみ p.10

楽しかったよ！ハロウィンパーティー

～自分たちで活動を進めて～

11月1日、年長児の青組が年中児の赤組、年少児の黄組を招待してハロウィンパーティーをしました。全園児がそれぞれに作ったおばけの衣装を着たり、お面をつけたりして参加しました。それまでの準備の様子や、当日の様子を紹介します。

衣装を作ろう！

ハロウィンと言えば、おばけに変身した子どもたちと「トリックオアトリート！（お菓子くれなきゃイタズラするぞ）」の言葉が有名ですね。年長児の青組の子どもたちはまず、ハロウィンパーティーへ向けて、気持ちを膨らませながら、衣装を作りました。この日は、いつも英語を教えてくれているタイラー先生が来てくれ、衣装作りに参加してくれました。様々な材料を目の前にして作ることに夢中になっていました。どの人にも工夫のしどころがあり、完成すると嬉しい気持ちで試着をしていました。



衣装の完成だ～！

ハロウィンパーティーに向けて！

ハロウィンパーティーでは、3つの出し物をすることに決めました。ハロウィンめいろ、おかしつり、くじびきです。青組の子どもたちが10人前後の3つのグループに分かれて準備をしていきます。どのグループも話し合いから始まり、その中で案を出し合いながら、進めていきました。楽しく、嬉しく準備が進んでいくときもあれば、幼稚園全員分のくじやお土産などを作っていくことが大変で手が止まることもありましたが、パーティーに来てくれた人たちが喜ぶ姿を想像しながら、友だち同士で「がんばろう」と声をかけあったり、時に助け合ったりしながら進めていくのでした。



おばけの絵を描くぞ！



ハロウィンパーティーに来てね！

楽しかったハロウィンパーティー☆

いよいよハロウィンパーティーの日がやってきました。ハロウィンの衣装に身を包んだ子どもたち。嬉しい気持ちと共にやる気でいっぱいです。スタンバイをした後、園内放送と共にパーティースタートです。

青組さんの衣装の雰囲気から、怖いおばけを想像していた年少児の黄組さん。先生と一緒に、おそろおそろゆっくり歩きながらやってきました。でも、周りの明るい雰囲気に安心し、お菓子がもらえることが嬉しくなって、笑顔で興味のある所へと出かけて行きました。

続いて年中児の赤組さん。朝から「まだ開かないの？」とリズム室や青組に何度も足を運んでくれた人がいました。「ハロウィンパーティーって何？」と少し怖がっていた人もいました。これもまた、だんだん賑やかになる雰囲気に溶けこむように楽しみ始めました。

どこの出し物も、楽しむ人たちでいっぱいになりました。青組の子どもたちは、自分たちより年下の人にどうかかわったらいいかを考え、やさしく話しかけたりお菓子を渡したりしていました。幼稚園がおばけでいっぱいだったこの日。楽しかったという思いがどの人の心にも残るハロウィンパーティーとなりました。



トリックオアトリート！くじをひかせてください♪



おやつ、上手く釣れるかな～？

知の更新をめざした「思考力」の育成（二年次）

—言語活動を充実し、思考様式を共有化する授業づくり—

附属坂出小学校では、言語活動を充実し、考える術である思考様式を共有化する授業づくりを通して、子どものもつ認識が新たになるような「思考力」を育成しようと試みています。本年度研究の重点を「思考様式のよさ」に絞り、個々の実感・納得を「体験を言語化」する開発教材によって、集団の承認・合意を集団の考えを発展させる「集団吟味」によって、実現させようと試みています。

以下に、実践しました授業をご紹介します。

●●●研究授業●●●

第1学年 国語科「ようちえんのみんなに おはなしを しょうかい しよう ～『おとうとねずみ チロ』～

篠原 智子



学習指導要領第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標の中に、「～想像を広げたりしながら読む能力を付けさせる～」とあります。子どもたちは、登場人物の会話や様子をあらわすことばから場面の様子を想像することはできるようになっています。しかし、実感を伴わない想像であるため、どの場面を読んでも「うれしい」「かなしい」といった同様な想像に限定されています。そのような1年生の子どもたちに、「場面の様子を自分の経験と結んで想像を広げながら読む力」の育成を図るための実践を行いました。

【チロになって言ってみる】

本時は教師の会話文の言い方、動作を修正するという場を設定しました。主人公チロの連続した2つの会話文の言い方、動作の一例を教師が示すと「あれ、『ありがとう』の気持ちが伝わってこないよ。」「同じ言い方でいいのかな。2つ目はもっとうれしそうなチロじゃないのかな。」などと言いながらチロになり切ってその場面にふさわしいチロの言い方、動作に修正していきました（体験の言語化）。

そして、修正したチロの言い方や動作を紹介し合いながら、その時のチロの気持ちを考えていきました。その際、前の場面のチロの様子を振り返りながらこの場面のチロの様子を捉え直させていきました。「チロはしましまのチョコキがとてもほしかったんだ。わたしもほしかったものをもらってとってもうれしかったことがあるよ。」「『チョコキあんでね。』と大きな声でさけんだ声がとどいたんだ。」などと前の場面のチロを自分の経験と重ねて、この場面のチロの様子や気持ちをさらに深めて考えることができました（集団吟味）。

このような2つの言語活動を通して、「いろいろな時の登場人物になってみる」という思考様式のよさを共有化していきました。



【前の場面とつなげて様子を捉え直す】



第6学年 音楽科「オリジナル・カノンをつくろう」

太田 雅子



【板書の2つの例を参考にする】

6年生になって学習したカノンの和音進行を使い、子どもたちはそれぞれのテーマで旋律をつくりました。子どもたちは、旋律を工夫する際、これまでの学習経験から音色、リズム、速度、強弱などの音楽的要素に目を付けて変化を付けようとします。そこに音の高さという新しい要素を加えることで、旋律の動きに変化を付けることが可能となり、表現が豊かになります。

そこで、本時は2つの曲を提示し、盛り上がる理由を音の高低との関係に目を付けて探っていく場を設定しました。盛り上がる部分の演奏を聴いたり、楽譜に示された高低を見たりする中で、『ドキドキドン1年生』は「小学校に入学する嬉しい気持ちと不安な気持ちの両方があります。嬉しい気持ちは高い音、不安な気持ちは低い音で表しています。」という考えが表出されました。また、『100%勇気』は、「がっかりしてめそめそしてという歌詞の部分にあまり高い音を使っていないけれど、気持ちが盛り上がっている100%勇気という部分になったら、今までよりもすごく高い音を使っています。」というように、音の高低の付け方を見つけることができました（集団吟味）。

この工夫を生かし、自分たちが作った曲の高低変化を視覚的に捉えることができる音のイメージ図を表し、実際の音を鍵盤ハーモニカで見つけていきました（体験の言語化）。そうすることで、曲の盛り上がり表現するために音の高低に目を付けて旋律を工夫する思考様式のよさを実感していきました。



【音のイメージ図を基に話し合う】

「学ぶこと」と「生きること」の統合

かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ

研究の次なるステップへと歩み始めました

6月の研究発表会を終え、そこでの成果と課題を礎にして、新たな研究ステージへと歩み始めています。

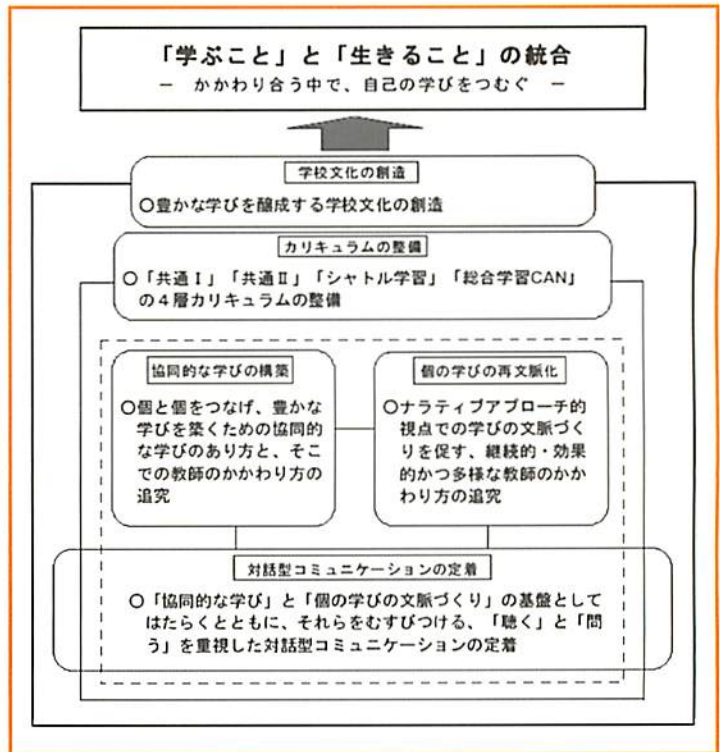
メインテーマ「『学ぶこと』と『生きること』の統合」は継続し、本校が目指す教育活動の方向性は変わりません。サブテーマ「かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ」は、「自己の学びを文脈としてとらえ、それを更新する学び」をより一層重視するとともに、そのために欠かせない「協同的な学び」のあり方についてさらに追究していこうという思いを込めたものです。

その際、生徒同士、あるいは生徒と教師とのコミュニケーションの基盤がどう築かれているかが大きなポイントとなります。

そこで、学校生活におけるコミュニケーションをさらに対話的なものにし、一人一人の生徒にとってより意味のある学びを実現していくための研究実践に着手しています。

11月からの研究授業では、ペア学習やグループ学習を重視した授業を実践し、そこでの生徒同士や教師と生徒との対話状況を分析しています。

一人一人の生徒が、自己と対話し、対象と対話し、他者と対話しながら、自己の学びを見つめ、その学びをじっくりとつむいでいけることを目指して研究を進めています。



【研究構想図】

研究授業より

生徒一人一人の学びが何によってどのように変容していくのかを、生徒同士の交流や教師のかかわりから、分析・検証しています。



【ペアで説明・質問をする場面】
(国語科)



【グループで考え方を交流する場面】
(数学科)

文化祭（総合学習「CAN」発表会・附中元気村）

「附中文化祭」が11月8日（月）に開催されました。今年の内容は、以下の通りです。

9:00 ~ 11:30	「CAN」発表会・優秀研究選考会	各教室	
11:30 ~ 12:20	片付け・昼食		
12:30 ~ 13:40	「CAN」優秀研究クラスター発表会	体育館	
14:00 ~ 14:05	「附中元気村」開会式	体育館	
14:05 ~ 14:30	吹奏楽部 演奏	体育館	
14:30 ~ 15:30	ステージ企画	体育館	
	文化部発表	文芸部	体育館
		理科部	理科室
		家庭科部・生け花部	家庭科室
		美術部	美術室
		茶道部	作法室
15:30 ~ 15:45	「附中元気村」閉会式・最優秀クラスター表彰式	体育館	

総合学習「CAN」発表会

異学年合同の小グループ（クラスター）による探究の成果を屋台形式で発表しました。生徒・教師を含めた参観者全員で審査し、優秀クラスターとして選ばれた五つのクラスターは、午後、体育館のステージで全体発表を行いました。



【MUSIC ACADEMY】



【救えるのは君しかないー日本種の研究ー】



【CM制作プロジェクト】



【アニメの大ヒットの法則を探究しよう】



【視覚の探究】

審査の結果、最優秀クラスターに与えられる青雲賞には「CM制作プロジェクト」が選ばれました。

附中元気村

後半は、「遥 - 悠悠蒼天 -」のテーマのもと、生徒が主体となって企画・運営した、文化部や有志による発表・展示等が行われました。



美術部作品



心がひとつになった

ふれあい祭り



附属特別支援学校恒例の「ふれあい祭り」が11月28日に盛大に開催されました。「ふれあい祭り」は、日ごろ温かく見守ってくださっている府中町の方々に深く感謝する祭りでもあります。

「ふれあいイベント第1部」は、体育館に全校生が集まって行いました。小学部の児童は、府中小学校の4年生と仲良く合唱をしたり、合奏をしたりして、練習の成果を披露。中学部は、紅白の力ひもを手にし、ねぶた祭りの「ラララ・ラッセーラ」と題した元気よく軽快な演技を表現。そして、高等部は鐘の音とともに、雄大で勇ましい獅子舞を体育館いっぱい披露しました。

「ふれあいイベント第2部」は、各学部に分かれて行われました。小学部では、地域の方々の協力を得ながら、交流校の友達や家族とともにゲーム大会を楽しみました。中学部では、地域のボランティアクラブの方や家族とともに調理で押し寿司作りに挑戦しました。高等部では、今年度初めて喫茶にチャレンジしました。手作りのカップケーキも好評で、たくさんの方にご来店いただけてありがたく思います。来年度は、より工夫をしてさらにパワーアップした喫茶を目指します。

会場では、バザーも開かれ、生徒が作業学習で制作した陶芸作品、絵織り、草木染め、野菜や花の苗などの販売活動も展開することができました。親和会や卒業生親の会、地域の方々も食品バザーに参加して下さったり、ボランティアで茶道を教えてください下さっている方がお茶会を催して下さったりと、たくさんの方の優しさに包まれて、社会参加の場を体験するよい機会になりました。

約500名の方々が来校され、和気あいあいとした雰囲気の中で、人と人のふれあいの絆の大切さを再認識した一日でした。



バザーの様子



小学部府中小との交流演奏



今年のポスター



中学部のねぶた踊り「ラララ・ラッセーラ」



高等部の喫茶「まうんでんぴーち」

香川大学教育学部 第3回 特別支援教育研究大会のご案内

香川大学教育学部特別支援教室すばるは、平成15年4月に設立されて以来8年間にわたり、通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする子どもたちの指導と保護者・担任への支援を実施してきました。そして、それらの指導・支援の成果を、学会論文等において発表したり、県教委より派遣された現職の先生方や大学院のコーディネーター専修生に対して実践的な研修を通して理解深化を図ったりしてきました。

そこで、この度、8年間の実践をまとめ、広く公開することにより、今後の特別支援教育の充実を図ることを目的に研究大会を開催することにしました。

以下に、概要をお知らせします。

大会テーマ「特別支援教育の充実:発達障害児を対象とした根拠のある指導と評価をともなう支援」

1. 主催 香川大学教育学部
後援 文部科学省 香川県教育委員会 一般社団法人日本LD学会
2. 日時 平成23年3月5日(土) 9:30~17:00
3. 会場 サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2番1号)
4. 対象者 保育士、幼・小・中・高等学校・特別支援学校教員、関係機関職員、保護者一般
5. 日程 9:30~ 開会式(受付8:30~)
10:00~ シンポジウム
12:00~ 昼食
13:00~ 分科会
15:00~ 特別講演 上野 一彦 先生
16:30~ 閉会式
6. 特別講演 演題「特別支援教育の充実に向けての課題」
講師 上野 一彦(東京学芸大学名誉教授・日本LD学会理事長)
7. シンポジウム テーマ「これからの特別支援教育において求められる指導・支援とは」
シンポジスト 堀井利衛子(新潟県立小出養護学校、元中学校通級指導教室担当)
小池雄逸(東京都目黒区立五本木小学校通級指導学級主任)
馬場広充(香川大学教育学部特別支援教室次長)
コメンテーター 石塚謙二(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)
コーディネーター 武蔵博文(香川大学教育学部特別支援教育講座教授、特別支援教室室長)
8. 分科会 テーマ「根拠のある指導と評価をともなう支援」
第1分科会: 認知機能のアセスメント
第2分科会: 教科指導(国語, 算数・数学)
第3分科会: 社会性育成支援
第4分科会: 保護者支援
第5分科会: 担任支援(特別支援教育コーディネーターによる支援を含む)



申込等につきましては、すばるのホームページ <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/> をご覧ください。

幼稚園より

ウェンディーの会 ～応急手当救命講習～

10月19日、ウェンディーの会で、坂出市消防本部より救命救急士2名を講師にお招きし、応急手当救命講習を行いました。

今回の講習では、迅速な119番通報の仕方や、心肺停止状態の傷病者を想定した自動体外式除細動器（AED）の操作、心肺蘇生法（気道の確保・人工呼吸・心臓マッサージ）について学びました。

AEDは、私達でも操作でき、電気ショックをあたえられる効果的な機器ですが、その前に、心肺蘇生法を正確に行えることが大前提であるということに認識を新たにしました。

また、日々様々な場面で起こりうる子供の病気や怪我に対する対処法もご指導いただき、小さな子供を持つ私達にとって有意義な講習会となりました。

私達は、いつ、どこで、突然の怪我や病気に遭遇するか予測できませんが、もしもの時に今回習得した知識・技術をもって対処できればと思います。



土曜メンテナンス

10月30日、土曜メンテナンスを行いました。

あいにくの天候にもかかわらず、約20名のおじいちゃん・お父さん方にご参加いただき、園庭の樹々の剪定や砂場の掘りおこし作業をしていただきました。

きれいに整えられた園庭や砂場では、今日も、安全にのびのびと遊ぶ子供達の笑顔が見られます。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。



小学校より

エコライフ活動

「都会（まち）のトム&ソーヤ（講談社）」「ランプの精リトル・ジニー（ポプラ社）」「ポケモンをさがせ！（小学館）」「怪談レストラン（童心社）」シリーズなど、35冊の本が小学校の図書室に仲間入りしました。これらの本は、エコ活動の一環として、制服や体操服などのリサイクル活動にご協力いただいた収益金で購入させていただいたものです。先生方のお勧めの本に加え、子どもたちからも本のリクエストを募り選定しました。

参観日などに制服回収BOXを設置しております。引き続きエコ活動へのご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。



PTAソフトボール大会

11月21日（日）、坂出市PTAソフトボール大会が開催され、附属坂出小学校から2チームが参加しました。



Bチームは惜しくも決勝トーナメントに進むことができませんでしたが、Aチームは決勝トーナメントに進出後、2連勝し、見事、優勝を果たしました。参加していただいた保護者の皆様お疲れさまでした。

中学校より.....

11月23日（祝）、恒例となった中学校PTA研修旅行があり、25名で鞆の浦と尾道で歴史と文学巡りをしました。

鞆の浦では、江戸時代から続く古い石畳の町並みをボランティアガイドさんに案内していただき、龍馬伝・ポニョの世界に浸り、万葉の昔から風待ち・潮待ちの港として栄えた江戸時代までの其々の時代に想いを馳せると共に、開発と景観保存という未来に向けた問題も考えさせられた有意義な時間を過ごしました。

尾道では、「おのみち文学の館」周辺でわか文学少女・少年になりきり、きつい坂道にヒーヒー言いながらも紅葉の中を散策しました。

先生方や他学年の保護者の方々と楽しく語り楽しく食事をする事で、人と人の距離が狭まり、世界が広がった一日でした。保護者のみなさん、どんどん行事に参加して保護者生活を楽しみませんか！



鞆の浦



尾道

特別支援学校より.....

『キンボール』を楽しもう！ ～PTA親子スポーツ大会～

『キンボール』をご存知でしょうか？本年度8月1日（日）のPTA親子スポーツ大会で初めて体験しました。まずは、キンボールに親しむということで、本来のルールではなく、サークル鬼ごっこという遊び方で楽しみました。

1チームでサークルを作り、中にいる鬼に何回キンボールをあてられるか競います。サークルは手をつないで作っているので、ボールは足でしか蹴れません。足でねらうのは結構たいへんそうですが、ボールが大きいので、わりと当たりやすく、ボールがスピーディに動き出すと、親も子もエキサイトして鬼をねらっていました。鬼は、香川大学の学生さんになってもらいましたが、逃げるのもたいへんだったようで、1ゲーム終わるごとにかなり息を切らせていました。

キンボールのほかに、「風船バレー」「たわしホッケー」も楽しみました。たわしホッケーでは、大量のたわしを準備しているので、これもまた、キンボールに負けないうらい、エキサイティングな親子のシュート合戦が見られました。夏の暑い日の開催でしたが、楽しみながらとてもよい運動ができました。

親和会



キンボールの様子



運動会

坂出学園の秋期大運動会が9月21日に行われました。プログラムの最後は、毎年恒例の生徒の創作によるマスメージックです。今年は「SKY～あの大空へ～」のテーマのもと、Ⅰ場：S～strong mind～（1～3年生男子）、Ⅱ場：K～kindness of heart～（1～3年生女子）、Ⅲ場：Y～youthful spirit～（3年生全員）の3部構成でした。男子の力強さ、女子のしなやかさ、そして何より、3年生の踊る楽しさに満ちあふれた笑顔が印象的でした。



土曜メンテナンス



運動会に先立つ9月4日、保護者有志の皆様による土曜メンテナンスが行われました。運動場南側の排水溝は完全に土に埋まっており、水が流れない状態でした。土を掘っていくと、排水溝に木の根が食い込んでいたため、予想以上に大変な作業になりました。それでも最後には、参加して下さった皆様の努力のおかげで、見事に排水ができるようになりました。ご協力感謝いたします。

中学校

2学期のあゆみ

坂出・綾歌校長会

11月8日、坂出・綾歌校長会が本校でありました。これは、1月27、28日に予定している第94回教育研究発表会へ向けて、研究授業を通して、本校の研究の考え方や方向性を坂出・綾歌地区の学校へ広げ、理解して頂くために行っています。今回は3年西組の体育科の授業でした。子どもたちは、台上前転名人をめざして、さらに上手になるためには、失敗した場面よりもその前の場面に原因があることを見出し、自分の練習しようとする場面を再設定し、練習に励みました。



授業後、本校の研究の概要を説明し研究討議を行いました。そこでは、参会された校長先生方から貴重な意見等を頂きました。それらを基に、職員は指導力を児童は学び方をさらに鍛えてまいります。

小学校

特別支援学校

放送教育研究会四国大会香川大会が開催されました。

「主体的に学ぶ意欲をはぐくむ放送教育の有効活用をさぐる」のテーマのもと、小学部・中学部の授業を公開しました。

【小学部】 図画工作科 「ねんどでつくろう！」



電子黒板や放送番組を活用したり、手順の提示の仕方を工夫したりしました。生き生きと自分の役割を意識しながら活動する子どもたちの様子が見られました。

【中学部】 音楽科 「打楽器で楽しもう」

音楽DVDに合わせて身体表現を取り入れたり、様々な打楽器を演奏したりしました。子どもたちに合わせてDVDを編集することで、全員がうまくリズムに乗って演奏することができました。



幼稚園

幼稚園で獅子舞(10月)

幼稚園に獅子舞が来ました。友だちやお家の人と一緒に獅子を見ることで、獅子の一つ一つの仕草に一層惹かれて、じっと見たり歓声を挙げたりする子どもたちの姿が印象的でした。獅子舞を見た後は、太鼓や鐘を打たせてもらい、とても楽しいひとときでした。

また、自分たちも、獅子を作ったり踊ったりと、伝統行事に触れながら、様々な経験をすることができました。



いろいろなところで異年齢交流(10月)

秋になり、園庭やウッドデッキ、部屋で、自然な異年齢交流が多く見られます。



その中で、年長児 <転がレドッジ> <みんなで踊ろう> は、はりきったり優しくかかわったりしています。小さい人は、年長らしい態度を感じています。

編集後記

9月から12月は、各校園とも多くの行事が行われました。教育実習を始め、附属坂出学園運動会、教育文化祭、ふれあい祭りなど、どの行事でも、子どもたちは年度初めから培ってきた力を十分に発揮して、すばらしい姿を見せてくれました。

中学校では、引退した3年生から部活動を引き継いだ2年生が、新人体育大会で大活躍しています。卓球部男子、バスケットボール部女子は綾坂の予選で優勝し、他にも多くの部活が県大会に出場しました。中でも野球部の成果はめざましく、県大会こそ準優勝でしたが、四国大会ではみごと優勝し、四国ブロック代表として3月の全国大会に出場することになりました。来年の総体に向けて、どの部活動も野球部に続けと気持ちを高めています。

発行年月日：2010年12月20日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽（附属幼稚園）

宮野 真也 三宅 永哲（附属坂出小学校）

寺岡 英郎 小林 理昭（附属坂出中学校）

武田 光弘 木下 博美（附属特別支援学校）